



東京部会(第 115 回)

日時: 2020年4月18日(土) 14:00-16:45

場所: ネット会議

参加者: 篠原代表を含め9名

1. 2月以降の状況報告があった。

- ・2月末の学校の一斉休業、その後の新型コロナ肺炎の感染拡大で、経済教育ネットワークでもすでに準備にかかっていた各地のイベントをすべて中止とした。
- ・東京証券取引所との共催事業、「夏休み経済教室」および「夏休み経済教室、動画ネット配信」も中止とし、秋以降で事態の推移を見ながら、改めて経済教室開催を企画することになった。
- ・4月3日に「教えるための経済学寺子屋」のメンバーと篠原代表の7名で、初めてのネット会議(zoom会議)を開いた。教育現場の現状の情報交換、休校が続くなかでの経済教育ネットワークの活動の方向などについて意見交換したほか、東京部会と大阪部会を、ネット会議形式で4月中に開催を試みることを決定した。
- ・今回は初めてのネットによる部会でもあるので、環境設定とリスクを考え、両部会ともに参加者を部会コア出席者に限定した閉鎖会議としたが、次回以降はオープン会議に改めることを確認した。

2 河原和之先生の教材案の検討が行われた。

- ・河原和之先生(立命館大学他)から以下のような授業案の報告があった。
  - ・タイトルは「盧舎那仏建立詔と壘田永年私財法が同じ年に発令されたわけ～歴史を経済の視点で考える」で、中学2年生歴史学習向けの教材である。
  - ・新型コロナウイルス流行を踏まえて、疫病が蔓延し、地震災害が連発した奈良時代の政策対応を取り上げるといふ、これまでにない経済の視点を取り入れた歴史授業案である。
  - ・構成は以下の通り。
    - ①ある人物の年表からその人物の生きた時代と人物推定するクイズを導入にする。(答えは聖武天皇)
    - ②他の寺にあって大仏のある東大寺にないものは何かを推定させる。(答えは墓地)
    - ③なぜ聖武天皇は大仏をつくったのかを四択クイズにして考えさせる。(四択でなく考えさせるもしくはすべてを正解とするようなクイズにする。)
    - ④聖徳太子の時代には造ることができなかった巨大な大仏をなぜ聖武天皇は造ることができたかを考えさせる。(答えは、人、技術、材料、お金など)
 関連して、お金や人はどうやって集めたのかを問う。(答えは、中央集権国家ができていたから、租庸調雑徭、地方にまでゆきわたってきた官僚制がその役を果たした。行基のような民間の力もあった。)
  - ⑤壘田永年私財法と大仏建立詔がでた時代の農民だったら、どんな要求を聖武天皇にするかを考えさせる。(答えは、それぞれ。動画で「壘田永年私財法」という歌を見せる。)
  - ⑥平安時代に飛んで、羅生門が荒廃したワケを壘田永年私財法の影響として押えて授業を終了する。
- ・この授業では、シンパシーを喚起するだけでなく、エンパシーの観点で時代や出来事を分析することで、現代の課題に向き合う思考力・判断力を育てることをねらいとするとまとめられた。
  - ・検討では以下のような意見や感想がでた。
  - ・なぜ聖武天皇が大仏を造ったかに関して、当時の権力者のいろいろな顔が見えてきた。



- ・墾田永年私財法と大仏が同じ年であったことはこれで改めて確認したが、だれの立場でどう見るかは現代の問題とつながるので、二つの事象の関係はもうすこし繋がりを知りたいと思った。
- ・当時の農民の立場で考えるとと言うが、どのレベルの農民なのかを指定しておいた方がよいのでは。また、当事者で判断するには資料が少ないと感じた。また、前半は天皇の立場、後半から農民の立場という形で視点のずれが気になり、どちらに力点を置くのかをもう少しはっきりさせる方がよいのでは。
- ・大仏建立が宗教的理由なのか、公共事業性があったのかについてももう少し資料が欲しい。
- ・大仏建立のお金の出所が知りたい。そのためには、国庫の歳入はある程度わかっているのだろうが、歳出に関する資料があればよいのでは。
- ・シンパシーとエンパシーの区別、関係がもうすこし具体的に知りたい。それが、生徒がどれだけ切実性や当事者の立場に立ちつつも対象に対して未来思考的にどれだけ認識を深めたかの評価につながるはず。
- ・これらの質問に対して、河原先生から回答(指摘を踏まえて検討する、まずは意外性、中学生なので資料はあまり多くても消化できない、シンパシーとエンパシーは学会でも議論、現代から過去を評価するのではなくその時代の状況を踏まえて思考判断することが歴史学習では求められている等)があった。
- ・最後に、現代のコロナとつなげるすぐれた歴史教材であり、視点を整理し、さらに議論を深めることで、共有財産にしてゆければということでの検討を終えた。

3 篠原代表から「新型コロナウイルス感染拡大から経済教育のネタを探す」という報告があった。

- ・これは、あくまで「エコノミストのなぐり書き」であるとのことで、以下の内容が紹介された。

①経済概念の学習のヒントになるのではということ、外部不経済、ネットワーク外部性の逆回転などの事例として使えるのではという提起があった。

②現在、コロナ不況、コロナ恐慌、コロナ大恐慌などといった新語がでてきているが、今回の経済停滞は、教科書で出てくる不況、恐慌などの意味を正確に理解するよい機会であろうとの指摘があった。

その準備として、景気後退と回復のパターンを、通常の景気循環、バブルの崩壊と金融危機、災害による景気後退と復興、戦争などによる景気、そして今回のcovid-19に類型化し、それぞれの特徴をまとめた。

特に今回のコロナは、人の移動制限とサプライチェーンの分断が生み出す大不況という特徴をもち、これまでのものとは違う結果になる可能性を示唆された。

これらの景気パターンの類型化を念頭に置いて、歴史と経済のインフュージョン学習を目指したのが、河原教材であると指摘し、さらに、大恐慌と今回のcovid-19との比較など、比較学習なども構想できるのではと提起された。

③経済学習における各章の学びの核心になる可能性があるケースとして、囚人のジレンマ、サプライチェーンの学習、働き方の学習に使えるとの指摘があった。特に、サプライチェーンに関しては、現代の貿易はリカードの比較優位原理では説明できないという指摘がされた。

④経済政策に関して、短期的支援策と長期的視点にたった復興支援策の両方が必要だが、現在は短期緊急支援策に議論が集中している段階である。長期的には、新しい産業への支援やリスク耐性を持つ経済構造づくりが必要になろうという指摘もあった。

⑤個別のネタとして、在宅勤務の問題、マスク不足の問題、日本でのテレワークの実情、困っている産業、地域社会の影響など、いくつもの教育ネタがころがっている。国際間のマスク取引が国際収支表のどの項目に対応するかなどのチェックも、国際収支の考え方を理解するうえで便利な教材になるかもしれない。

以上に対して、参加者からの感想とこれをヒントに教材開発が行われるとよいとのまとめがあり、報告を終えた。



#### 4 全体に

・はじめてのネット(zoom)による部会であり、予定より延長したが、部会で提案された資料が事前に配付されていたこともあり、ネット会議として充実した時間をもてたと言えよう。

・今回は、会員のネット環境の準備状況とサイバー攻撃のリスクへの対応を考えて限定されたメンバーによる方式を試みたが、今後の部会の在り方として、オープン方式による多人数でのネット会議のもちかたを検討してゆくことが必要となろう。

(記録と文責:新井)

次回の開催予定、5月9日(土)14:00~16:00 ネット会議。議題は、教材の検討、情報交換。